

機関番号：12601  
研究種目：若手研究（B）  
研究期間：平成 20 年度 ～ 平成 21 年度  
課題番号：20700634  
研究課題名（和文） 高等教育初任者教員の不安・孤独感を緩和するハイブリッド型支援システムの開発と評価  
研究課題名（英文） Development and Assessment of the Hybrid Support System to Bring Relief for Beginning Teachers in Higher Education  
  
研究代表者：重田勝介（SHIGETA KATSUSUKE）  
（東京大学 大学総合教育研究センター 助教）  
研究者番号：40451900

## 研究成果の概要（和文）：

本研究は、高等教育機関初任者教員の不安・孤独感の緩和を目指すハイブリッド型教育活動支援システムを開発し評価するものである。本研究では、初任者教員が日頃の教育研究の活動状況を共有し、ビデオを通し対話を行うことで不安・孤独感を低減することを目指した Web システム「Aloha!」を開発し、それをを用いた実践と評価と評価を行った。その結果、本システムを用いた初任者教員の交流やコミュニティ形成が、初任者教員特有の不安感や孤独感を低減し、彼らの問題解消につながる事が明らかになった。

## 研究成果の概要（英文）：

This research aims to develop and evaluate the "Hybrid" system to bring relief for beginning teachers in higher education. For this, we developed the web-based system called "Aloha!", sharing the daily activity of their research and education and communicating with video to bring their relief. Through the practice utilizing "Aloha!", it revealed that this system enables to bring relief for their feeling of anxiety and to lead the resolution of their problems through their exchange and community building.

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 20 年度	1,700,000	510,000	2,210,000
平成 21 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：教育工学

キーワード：教授学習支援システム

## 科学研究費補助金研究成果報告書

## 1. 研究開始当初の背景

近年高等教育機関においては、FDの一環として授業改善や学生への授業理解支援が強く求められており、教員にもレベルの高い講義運営や教授方法が求められている。国外では以前より米国の大学を中心とし教員研修が全学的に行われており（Urukison, Jiimuzu「アメリカの諸大学におけるFD(大学教員研修)の動向」京都大学高等教育研究 3,157-163,19971001）、国内においても同様の取り組みが注目を集めており、教師の指導力などの力量形成を目指した大学教員を対象にした研修や、公開授業を通じた教員研修など（田口真奈他「FDとしての公開授業の類型化: 13 大学の事例をもとに」日本教育工学雑誌 27,pp25-28,2004.3）様々な取り組みが行われてきた。

しかしこれまでの高等教育機関における教員研修は、これまで講義を長期間行ってきたベテランを含めた全教員を対象としたものが多く見られる反面、教育活動そのものに不慣れた初任者教員に焦点を当てたものは少ない。加えて初任者教員には、教授方法などスキルのトレーニングに留まらず、教育活動そのものに対する不安・孤独感など、メンタル面も含めた支援が不可欠だと考えられる。初任者教員を対象とした研究でも、教育方法への研修を含めた教員の「不安」を有効にサポートする方法の検討が課題であるとされている（田口真奈他「高等教育機関における初任者を対象としたFDの現状と課題」日本教育工学雑誌 30(1) 19-28 2006）。また初任者教員の多くは職を得て即座に授業を担当することが多く、不慣れた教育活動への不安を持ったとしても同年代の同僚が身近にいるとは限らないため、相談する相手を持たず孤独感を持ち、教育活動に留まらずひいては研究活動にも支障をきたすことも想定され、このような教員の不安・孤独感を緩和し彼らの教育活動を支援する取り組みが求められる。

このような不安・孤独感の緩和には、同じ環境にある初任者教員同士で互いの教育活動を公開し、互いに評価し合うことで、安心感や共感、自身の教育活動への振り返りを促すコミュニティが寄与しうると考えられる。近年、オンラインコミュニティのツールとして SNS が注目されているが、教育用途でも教員用 SNS の取り組みも見られ（都立高情報教員 SNS など；<http://sns.spacebridge.info/>）、教員の時間的・地理的制約を踏まえると、このようなオンラインでのコミュニティ形成が一つの有

効な手法と考えられる。

## 2. 研究の目的

本研究では高等教育の初任者教員を対象に、その「教育システムに関する不安」を緩和するための枠組みを提案する。初任者教員同士が教育・研究に日々携わる中で持つ不安・孤独感を低減するため、互いに対話し、問題同定や解決に向かうような助言を出し合えるような、初任者教員の対話とリフレクションを促すシステムを開発し、評価する。

## 3. 研究の方法

本研究では、初任者教員が互いの教育研究の状況を共有し、教員同士がビデオを通じた対話を行うことで不安・孤独感を低減しうる Web システム「Aloha!」を開発した。このシステムでは、教員同士がナラティブ・セラピーにおけるカウンセリング手法の一つである「リフレクティング・チーム」の枠組みを援用し、ビデオを通じて互いの不安や苦勞を語り合うための対話ルールを提示して援助する。このような場を提供することで、教員が悩みや不安を解消しうる、新たな「ストーリー」を発見することで、彼らの不安・孤独感を緩和しうると考えた。

このシステムを使い、2008 年度には大学教員数名による形成的評価を、2009 年度には、「Aloha!」を用いた実践と評価を行った。2009 年 9 月から 2010 年 2 月にかけて、徳島大学・香川大学の初任者教員 8 名の協力を仰ぎ、「Aloha!」を用いた実践を導入のためのワークショップと合わせて行い、教員個人々の不安・孤独感低減や、彼らの持つ「ストーリー」の転化がどのように起こったのか評価分析を行った。その結果、一部の教員の不安・孤独感が大きく低減したが、他の教員と比較したところ、不安・孤独感が大きく低減した教員の、悩みの「ストーリー」が対話を通じて変化することが不安・孤独感の解消につながり、ひいては教育活動へのやる気向上や新しいアイデアの発見など、日々の活動変化や職場環境の改善などにつながりうるということが明らかになった。この研究成果については、引き続き平成 22 年度に学会発表や論文文化がなされる予定である。

## 4. 研究成果

本研究によって、高等教育初任者教員の支援を目的とする本研究の枠組みが、彼らの不安・孤独感を低減しうるということが明らかになっ

た。加えて、そのような不安・孤独感の低減が単に対話によって賦活されるのではなく、彼らがコミュニティを形成して交流し、見方の様々な他の教員との対話を通じて悩みの「ストーリー」が変化し、不安・孤独感の低減につながるというメカニズムが明らかとなった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

重田勝介、館野泰一、大川内隆朗、福山佑樹  
「高等教育初任者教員の不安・孤独感を緩和する対話システムの開発」日本教育工学会研究会 2009年5月16日

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

重田勝介 (東京大学)

研究者番号：40451900